

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870301074		
法人名	社会福祉法人 欣水会		
事業所名	グループホーム だんらん		
所在地	茨城県土浦市穴塚1957番地		
自己評価作成日	平成26年9月20日	評価結果市町村受理日	平成27年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0870301074-00&PrefCd=08&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成26年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念に基づいた在宅と変わらない生活環境作りに努めている。
 毎年、年間スローガンを掲げており、25年度は「いつも笑顔と思いやり」というスローガンのもと明るくあたたかい雰囲気を目指した。26年度は「ほう・れん・そうの徹底」とし、入居者一人一人の変化や状況、出来る事、出来ない事を把握し、職員間で共有・相談し、その方らしく暮らしていけるようなケアにあたっている。
 また、法人全体で毎月近隣の空き缶・ゴミ拾いを行っており、地域の方々と交流がある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特別養護老人ホームを母体として平成16年に設立された当ホームは、管理者や法人の代表が地元の住民であり地域との結びつきがたいへん強く、地域住民や地元消防団による災害時の協力体制構築も丁寧に進められており、ホームによる地域の清掃活動や小・中学生の職場体験受け入れなど地域貢献も積極的に行われ、地域と支えあう関係が無理なく築かれている。職員はベテラン職員から新人職員まで幅広く配置されて日頃から職場での新人教育をすると共に、外部の研修や内部での勉強会を実施して専門性を高めており、それぞれが専門知識を基に利用者一人ひとりを大切にされた質の高いケアサービスを実施している。利用者は職員手作りのおいしい食事を楽しみ、日々の散歩や地域の行事への参加、家族と一緒に外出をして外に出かける事を楽しみ、趣味や出来る事を続けながら家庭的な雰囲気の中で誇りある暮らしをしている。医療面でも2週間に1回の往診で健康状態を把握し、常に適切な医療の受けられる体制や看取りの体制等も整っている中で利用者は安心して暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を玄関に掲示し、毎日、朝礼で唱和する事で、全職員で共通理解を図っている。利用者と接する中で問題や迷いが生じた場合、法人理念に立ち返り、職員全体で考えるようにしている。	全職員は、地域密着型サービスの意義や事業所の役割を十分に承知して創りあげられた法人の理念を大切にしており、日々唱和して共有に努めている。法人理念を基に毎年年間目標を全職員が関わり作成し、更に月間目標を全員で考え事務所内に掲示して共有を図り、具体的なケア実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎月、近隣の空き缶・ゴミ拾い週間を設け、実施している。「いつもご苦労さま。」と声を掛けて頂く事も増えてきた。納涼祭(7月)やバザー(不定期)など通じて、地域の方々と交流している。	地域貢献として実施してきた毎月の空き缶・ゴミ拾い等を通して地域住民とは顔なじみの関係が出来ており、利用者の散歩時には近所のお宅でお茶をご馳走になることもある等の親しい関係が出来ている。地域の夏祭りには法人の機材を使っていただいたり、寄付をする等地域との関わりを積極的に行い、地域の一人として事業所自体も受け入れられ、地域の社会資源としても小・中学生の職場体験等に活用されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に活かしている	散歩や外出する事で地域の方々と触れ合い、認知症について理解して頂くと共に、相談を受けたりすることで支援につなげている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	利用者の様子や月ごとの行事などを報告し、それについてご家族や介護相談員、地域の方々からのご意見を参考にケアに取り入れることでサービスの向上を目指している。	利用者・家族・民政委員・区長や市の担当職員などの出席を得て定期的に開催している。ホームの活動状況等を丁寧に知らせると共に、出席者からボランティア情報や地域の情報を頂くなど、運営推進会議をとおして地元との協力関係をより密接なものとする取り組みをしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の高齢福祉課の職員の方と連絡を取り合い、疑問点や困ったことはすぐに担当者に相談するようにしている。	運営推進会議ではホームの活動や実情を丁寧に知らせ、毎月訪れる介護相談員には利用者や直接話をしながら日々の暮らし振りを見て頂きホームの実情を知ってもらう取り組みをしている。市主催の事業者連絡協議会への出席や介護認定時に管理者が丁寧に実情を知らせる等日頃から市の事業に積極的に協力しており、必要に応じて気軽に相談できる良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を通して具体的な行為を職員が共通理解している。徘徊する方もいるが、玄関の施錠はせず、職員全員で身体拘束ゼロのケアを行っている。	外部での研修やホーム内での勉強会をとおして全職員が身体拘束についての正しい知識を身につけ常に拘束のないケアを実践している。玄関のドアには施錠がなく利用者が何時でも外に出られるようにしている。帰宅願望が強く常に外へ出て行く利用者には職員が付き添い、気分が落ち着くまで外歩きに付き添う等きめ細かな対応を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	施設内研修で虐待についての勉強会を実施し、全職員が共通の認識を持つよう努めている。特に心理的虐待につながる言葉遣いなどは職員同士で注意し合い、ケアの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体の施設内研修や毎月のだんらん会議の中で勉強会を開き、知識を身につけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に十分な説明を行い、納得して頂けた場合は同意書に署名・捺印して頂くことで同意の確認をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付システムを確立しており、受け付けた場合は会議を開き全職員に周知、ケアの改善につなげている。また、重要事項説明書内にシステムについて盛り込み、説明している。	年1回アンケート調査を実施したり、運営推進会議に出席していただいたりして利用者や家族の忌憚のない意見や要望を聴き取り組みをしている。家族の面会時にはお茶を飲みながらリラックスした雰囲気の中で意見や要望を言い易くするような配慮をしている。「買い物の機会を多くして欲しい」などの外出に関する要望については職員と話し合いをしながら家族の協力も得て実現している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等で職員の意見や要望を聞いたり、休憩時間などの機会を利用し、率直な意見を聞いたりしながら運営に反映させている。	毎月の会議や日々の会話の中で常に職員の気づきや意見を聴き取り組みをしており、電気乾燥機をガス乾燥機に変える等様々な気づきを運営に取り入れている。職員が本音で話ができる機会としてファミレスを利用した朝の食事を定期的に開催して和気あいあいとした雰囲気を楽しみながら職員の積極的な意見や要望を聴いている。職員の希望する研修には積極的に受講を勧め、新入職員の教育についても勤務年数の長い職員が率先して関わるなどホームの提供するサービスの質の向上に取り組む職員を管理者は見守り支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事課制度を導入しており、職員それぞれの努力が報われるようシステム作りが確立している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外での研修や講習を積極的に勧め、職員のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複数事業所連携事業に参加しており、講演会などを通じて他事業所と交流を図っている。また、意見交換を通して良い所は取り入れることでサービスの向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の開始の際、その方の身体状況や生活歴、趣味、入所前の生活、ご家族の希望等、詳しくアセスメントし理解するよう努めている。また、意見や要望を話しやすい雰囲気作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所される際、ご家族と十分に話し合いを行い、不明な点などがあれば直ぐに言って頂けるよう声掛けすることで不安解消に努めている。また、面会の際、出来るだけお話を時間を作り、意見や要望を引き出すようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援センターやケアマネージャ、相談員と連携を取り、現状で何のサービスを最も必要としているのかを見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護を「する側・される側」という意識を持たず、和気あいあいと暮らして頂けるよう、コミュニケーションをとり信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	だんらん通信を通して近況や行事等のお知らせをしている。ご家族の協力も得て、他の施設に入所しているご主人の面会に行かれる方もいる。連絡を取り合い、家族との信頼関係も築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人やご近所だった方が面会にみえる方もいる。ドライブで思い出の場所や住んでいた所の近くを巡ったりしている。	親族や友人・知人の訪問は日常的にあり、食べたい物のリクエストで行きつけの店で蕎麦やうなぎを食することや地域の高齢者の集まりである「生き生きききょう会」に参加したりして自宅に居た時と同じような地元との付き合いを継続させている。買い物や美術館に出かけたり、法事や結婚式などに出席して馴染みの方々と会う機会なども大切なこととして家族の協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間のトラブルには迅速に対応し、ストレスや不満の軽減に努めている。常に利用者の状況を観察し、必要に応じて席替えをしている。孤立しがちな方にはレクリエーションを通して他利用者と係れる機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に入所された方に会いに行き、職員と情報交換する事で、よりよいケアにつなげている。また、退所後も、移動先のケアマネージャーや職員へこれまでのケアの方法や参考になりそうな情報を伝え、支援している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アンケート調査を行ったり、こちらから声掛けし、したい事やしたくない事、好き嫌いを把握し、理解を深めることでケアに反映させている。聞き取りが難しい方にはご家族の意向を考慮しながら職員間で話し合っで決めている。	アンケート調査や聞き取りではそれぞれの意向を聴いているが、ご自分の思っていることを伝えることが困難な利用者の中には、利用開始時は24時間シートを活用して、行動や観察をとおして利用者一人ひとりの意向の把握を丁寧に行っている。日々の生活の中で変化する思いや意向の把握については職員の気づきや表情等の観察事項を連絡ノートに記録し、全職員で本人本位の検討をしながら利用者のその時々をの思いを把握している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に十分な聞き取りを行い、情報収集に努めている。入所後も利用者やご家族とコミュニケーションを図りながらこれまでのお話を伺い、よりよいケアにつなげている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを作成する事でそれぞれの1日の過ごし方を職員間で共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開催し、本人、家族、看護師、介護職員で十分に話し合い、意見交換する事で本人にとって最適な介護計画となるよう努めている。	丁寧なアセスメントを基に本人・家族の希望や職員の気づき等も取り入れて介護計画が作成されている。計画は本人の役割や家族の支援項目も記され、日々の生活を楽しめる暮らしに密着したものとなっている。日々の記録を基にモニタリングが実施され、サービス担当者会議で十分に話し合いをしながら本人の状態に即した随時の見直しや定期的な見直しが行われている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、ケース記録を記入して職員間で情報の共有をしている。それをもとにケース会議を行い、ケアの見直しを図っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人全体で連携を取りながら、その時に最も適切なサービスが提供できるように協力体制をとっている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	腹話術や尺八、ロボットセラピー等、ボランティア団体の協力を得て楽しんで頂いている。また、ご家族が所属している団体にご協力頂き、手品や合唱などを楽しんで頂けた。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人及び家族の意向を伺い、かかりつけの医師を変更するかどうか決めている。	本人や家族の希望でこれまでのかかりつけ医への受診を継続している利用者もいるが、多くの利用者が協力医療機関の医院をかかりつけ医としている。2週間に1回の往診で常に利用者の健康状態を把握しており状態に応じた適切な医療が受けられるようになっている。専門医への受診に際しては家族にサマリーを渡しホームでの状況を丁寧に知らせている。受診の結果はケース記録に記載し全職員が共有できるようにしている。利用者一人ひとりの介護サマリーは変化のある毎に訂正しながら何時でも実情に合ったものとしており緊急の場合にも対応できるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化やバイタルサインの異常が見られた場合、すぐに看護職員に連絡、相談し、対応している。夜間も随時連絡し、適切な対応ができています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護サマリーを作成し、情報提供をしている。入院後も担当看護師や担当医師と情報交換することで、スムーズな退院につながっている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、グループホームで出来る事、出来ない事を明確にし、家族の希望を尊重しながらケアの方針を考えている。終末期のケアについても家族に十分説明し、同意書を頂くようにし、職員間でも終末期のケアについて勉強会を開き、チームとして統一したケアを目指している。	入所時に「看取り介護に関する指針」について丁寧な説明をすると共に同意書を頂いているが、本人の状態に応じて随時話し合いをして意思の確認をしている。家族の思いを聴きながら延命治療についても最期まで寄り添い確認を行っている。看取りについては医師・看護師が24時間何時でも対応できる体制を整え、利用者の状態に応じて全職員がケアについての研修・勉強会を実施して本人の状態に合わせ統一したケアができるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救命講習を受けている。また、様々な場面を想定しての対応マニュアルを作成し、職員への周知徹底を図っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、避難訓練を実施している。法人全体でも協力体制が確立しており、いざという時の為、常備食も確保している。	消防署と連携しながら定期的な避難訓練を実施すると共に、毎月火災時の避難訓練として失火場所を特定しての訓練や夜間想定訓練などを実施している。訓練の日程・時間帯を夜勤に従事する職員が参加できるように設定して夜間の災害時にも落ち着いた対応ができるような工夫をしている。さらに市のハザードマップを基に水害時の避難訓練も実施している。避難訓練には地元消防団の参加があり、地域住民には具体的な役割を決めて協力を依頼し、了承を得ている等、地域との協力体制も整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴や性格を理解する事で、一人一人に沿った対応をしている。特に個人の尊厳に重きを置き、言葉かけやプライバシーの確保に細心の注意を払っている。	利用者一人ひとりを尊敬する気持ちを持って接することを心がけている。趣味の継続や呼び名の工夫をしてその人らしさを失わない生活を支援し、掃除・食事の後片付け等の出来る事を楽しみながら誇りある生活ができるよう支援している。入浴時の着替え中や車椅子利用者のトイレ利用に際してもさりげなくドアを閉めるなど職員はプライバシーを意識した対応を心がけている。利用者の要望に応じて入浴時には同姓介助を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が困難な方やそうでない方でも、開かれた質問や閉じた質問を使い分けて要望の表出や自己決定につなげている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の内容や入浴、レクリエーション等、可能な限り本人の希望に沿えるようにしている。食事のペースや衣類着脱のペースを大切に、自立支援につなげている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月1回、移動美容室をお願いしている。本人の意向や好みをよく聴き、その人らしさを大切にしている。また、日々の身だしなみに注意し、洋服なども相談しながら一緒に決めたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下準備をしたり、お茶の葉を詰めたり、出来る事を会話を楽しみながら一緒に行っている。配膳・下膳も歩ける方にはして頂き、テーブル拭きやお盆拭き等も手伝って頂いている。	職員が利用者の好みを取り入れた献立を作っている。食材の買い物は週2回としているが、その日の広告を見て随時買い物をして季節感のある食事作りをしており、屋食時の利用者からは「ここでは何時もおいしいものがいただけるよ」との声も聴かれた。利用者と一緒に下準備などをしながら食事作りの段階から食事を楽しめるようにしており、庭先に栽培しているトマトや大葉などが食卓を飾ったり、いちぢくジャムを作るなど日頃から食べることを楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各々の好みや体重の増減を考え、献立の作成をしている。職員が交代で作成しているが、管理栄養士に随時相談し調整している。また、その日の体調や状態に応じてお粥に変更したり、副菜を刻んだりして美味しく召し上がって頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所で口腔ケアを実施している。声掛け、見守りをしながらできる所はご自分でして頂き、不十分な部分のみ職員が介助にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	誘導が必要な方は排泄パターンをつかみ、それに沿って随時行い、トイレでの排泄を目指している。オムツの使用も可能な限り避け、必要な方のみ、また夜間のみ使用している。	夜間はポータブルトイレの利用者や安眠優先でオムツを使用する利用者も僅かにいるが、それぞれの排せつパターンの把握により声かけ・誘導により、座位の保てる利用者の全員がトイレで排せつしている。失敗が多くなった場合には24時間シートによる見守りを行い排尿の多い時間帯に声かけをしてトイレでの排せつを促し、パッド・オムツの使用は極力避けるようにしている。パッドの使用に際しては本人の自尊心を傷つけない言葉かけを工夫して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトを提供する事で便秘予防に努めている。便秘がちな方には特濃牛乳を飲んで頂いている。また、本人の負担とならないよう医師と相談しながら服薬コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の手合わせで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	シャワー浴の日、入浴日と曜日毎に決まっているが、本人の希望に出来る限り沿うようにしている。ほとんどの人が毎日入浴し、入浴の順番など、その都度本人に確認している。	毎日湯を沸かし、毎日入浴できるようにしている。午後3時過ぎからの入浴にしているが、「今入りたい」以外には午前中からの入浴希望にも沿えるようにしている。介助なしで一人で入りたい利用者の場合にはドアの外で見守りをする等それぞれの希望を大切にしている。拒否する場合には強引には勧めていないが連日拒否する事もなく全員がスムーズに入浴できている。柚子湯やリンゴ湯、時にはバラの花を浮かべた湯、温泉の湯などを楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活リズムを把握したうえで、自由に過ごして頂いている。その日の体調に合わせて身体に負担がかからないよう昼寝をしたりしながら休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々が服用している薬について勉強会を開き、職員全員が理解するよう努めている。チェック体制を強化し、誤認防止に努めている。また、回診時、状態変化を医師に伝え、服薬調整をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎朝の清掃やテーブル拭き、調理補助、ブラインド昇降、カレンダーの日めくり等、決まった役割を持って生活して頂いている。一人一人の趣味や楽しみを尊重、理解し、無理なく引き出せるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はできるだけ日光浴をして頂いたり散歩に出るようにしている。行事の中に買い物やドライブを組み込み、外出の機会を設けている。また、家族の協力を得て、公園やデパートに定期的に外出している方もいる。	ホーム周りの散歩は日常的に行われており、地域の夏祭りや小学校の行事への参加、買い物、飲食店利用などそれぞれの希望を聞きながら外に出かける機会を多く設けて利用者が楽しみながら外出できるよう支援している。冠婚葬祭や選挙など家族の支援を受けての外出やホームの外出に家族をお誘いする等様々な機会を利用して外出を楽しんでいる。行事としての計画以外にも話題の水陸両用のバスに乗るなど利用者・職員・家族が一緒に楽しめる機会を随時取り入れた外出支援も積極的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持している方はいないが、定期的に関心を持って買物ツアーを実施する事で、買物の楽しさを感じて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙は自由にやりとりして頂いている。電話は本人からかけたいと訴えがあった時や家族からかかってきた時は取り次ぎのお手伝いをしている。手紙も返事を本人に書いて頂き、郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間の毎日の掃除を始め、テレビの音量、空調などにも気を配り、快適な空間作りに努めている。また、季節に合った飾り付けや掲示物をし、季節を感じられるよう工夫している。	各ユニットの居間は談話コーナーも含めて広々として明るく、除菌装置によりホーム全体が清潔に保たれており、観葉植物や飾り物で季節感のある家庭的な雰囲気を出している。特に対面式のキッチンでの食事作りには生活感のある温かな雰囲気がある。 職員手作りのカレンダーは大きな数字で示され、当日に赤いリングを置いてわかりやすくしたり、見やすい時計を置くなど利用者の見当識障害への配慮も見られた。本箱のある明るい窓辺には何時でも読書を楽しめるテーブルを置いたり、体を休めるソファがあったりと利用者それぞれが寛ぎ、充実した時を過ごせるような工夫が随所に見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者それぞれにくつろげる空間がある。日当たりのよいソファやテーブルなどもあり、自由に過ごして頂けるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室内への持ち込みは自由である事を伝え、家族または本人と相談しながらテレビや家具、写真、絵など使い慣れているものや好きな物を置いて頂いている。	息子や娘、孫など家族の写真に囲まれた居室や趣味の絵を飾っている居室、使い慣れた手鏡などが手元に置かれ自宅に居た時と同じような暮らしが出来るように設けられている居室等、本人が安心して過ごせるように家族や職員が協力しながら工夫している様子が見られた。 利用者の状態により畳を敷いて布団で就寝できるようにしている居室等もあり、利用者が安全に安心して過ごせるような工夫がそれぞれの居室に見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの居室前に手作りのネームプレートを掲示し、自分の部屋と認識できるようにしている。		

(別紙4(2))

事業所名:グループホーム だんらん

目標達成計画

作成日:平成27年2月3日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		地域とのつながりをより密接なものにする	入居者が祭り等、地域での行事へ参加する機会を増やす	地域貢献を始め、地域住民とのさらに密接な関係作りを図りながら、季節ごとの行事の情報収集を行い、入居者が参加できる機会や環境作りに努める	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。